

株主メモ

Stockholder Memo

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日

定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒541-8502

(連絡先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

TEL (通話料無料) 0120 (094) 777

公告方法 電子公告とし、当社ウェブサイトに掲載いたします。なお、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
ウェブサイト <https://www.kfc-net.co.jp/>

上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場

単元株式数 100株

単元未満株式の買取請求受付場所 証券会社等ご利用の株主様はお取引の証券会社等へお申し出ください。
証券会社等ご利用でない株主様は左記特別口座管理機関にお申し出ください。

ウェブサイトのご案内

Website



<https://www.kfc-net.co.jp/>

当社ウェブサイトでは、株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためにも是非アクセスしてください。

株式会社 ケー・エフ・シー



KFC REPORT

時代のニーズに対応する、先進の技術を追い求めて

第59期年次報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

株式会社 ケー・エフ・シー

証券コード：3420



株主の皆様には、 平素より格別のご高配を賜り、 厚く御礼申し上げます。

当社は2023年3月31日をもって第59期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の事業年度を終了いたしましたので、ここに事業の概況並びに決算の内容についてご報告申し上げます。



代表取締役社長 **高田 俊太**

企業理念

- 一. 私たちは信用を重んじ、社会の発展と豊かな環境づくりに貢献します。
- 一. 私たちは時代のニーズに対応し、常に変貌する企業を目指します。
- 一. 私たちは社員相互の信頼のもと、人材を育成し、希望に満ちた企業を創造します。
- 一. 私たちは常に学ぶ姿勢を持ち、自己と企業の進歩、改善を目指します。

第59期の業績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、度重なる新型コロナウイルスの感染拡大によって多大な影響を受けたものの、移動制限の緩和などにより一定の回復傾向が見られました。

しかしながら、原材料価格の上昇や電子部品の供給不足、国際情勢に端を発するエネルギーコストの上昇などにより、企業活動や消費動向に未だ不透明感が残るなど、予断を許さない厳しい状況が継続いたしました。

当社グループの関連する建設業界においては、建設資材価格の上昇や慢性的な人員不足の問題等が依然として山積し、厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと当社グループは、従来より強化している技術提案型営業によって需要先のニーズを的確に捉え、当社の有する豊富な製品・工法群より最適なソリューションを提案することで、公共事業を中心とした政府建設投資の需要に確実に応え、商品の拡販と建設工事の受注に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、226億27百万円（前期比12.8%減）で、その内訳は、商品売上高が95億95百万円（前期比2.9%減）、完成工事高は130億31百万円（前期比19.0%減）となりました。

今後の見通しについて

今後の見通しにつきましては、世界的な物価上昇の影響を受けながらも、コロナ禍からの社会経済活動の再開で個人消費や設備投資、インバウンド消費などが活発化するものと見込まれますが、引き続き金融情勢、地政学リスクに注視が必要な状況にあります。

一方、建設業界においては、建設資材価格や運搬費

の高騰、少子高齢化に伴う人材不足、若年労働者の確保や働き方改革による労働環境の多様化など多くの課題を抱えており、事業環境をめぐる見通しは今なお不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社は今後の成長に向けて、「ケー・エフ・シーグループ中期経営計画（2021～2023年度）」において掲げた「収益力の向上」「技術・開発力の強化」「働き方改革」「経営基盤の再構築」の基本戦略を再度徹底し、コアコンピタンスを磨いてまいります。

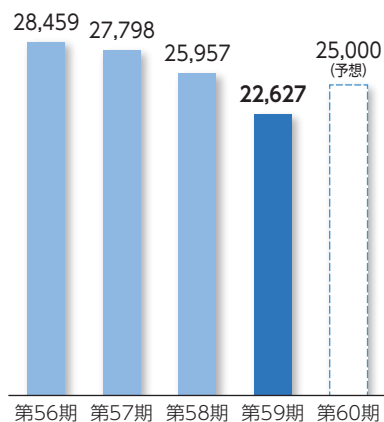
更には、常にオンリーワン技術にチャレンジしてきた当社の成長の方程式に照らし、時代のニーズに対応するため新たな技術開発体制を構築し、豊かな社会資本・インフラ整備に貢献する「業界のリーディングカンパニー」として企業体制を確立してまいります。

これらの着実な積み重ねにより、持続的成長を可能にする強固な経営基盤を確保し、いかなる市場環境においてもステークホルダーの皆様のご期待に応えることができる企業力を築いてまいります。

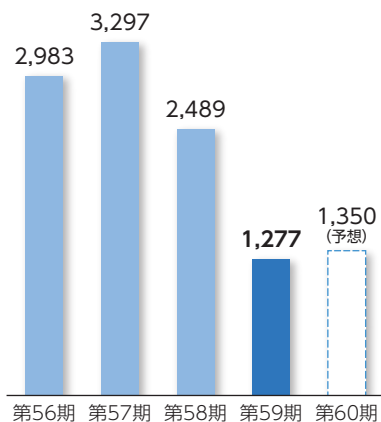
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

売上高の減少や、材料や人件費をはじめとした仕入れコストの増加などにより、減収減益となりました。

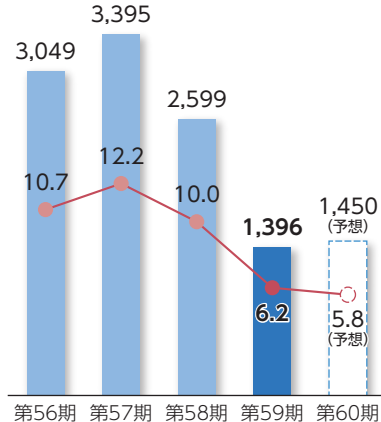
売上高 (単位: 百万円)



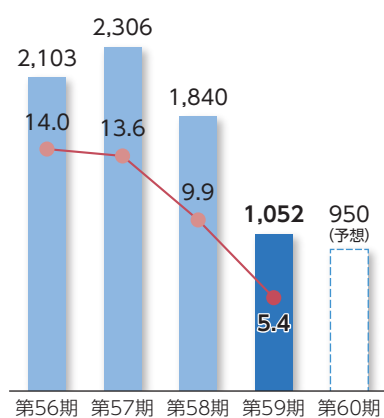
営業利益 (単位: 百万円)



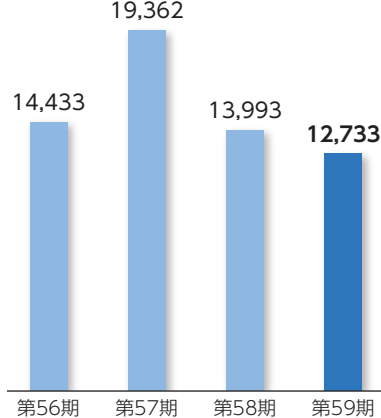
経常利益 (単位: 百万円) / 経常利益率 (単位: %)



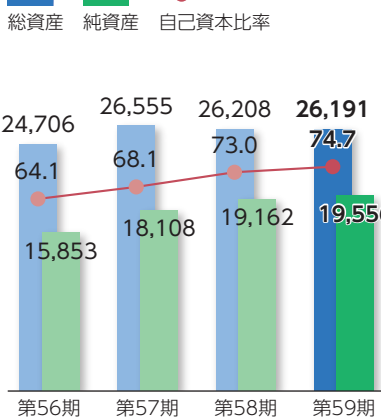
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円) / ROE (単位: %)



受注工事高 (単位: 百万円)



総資産 / 純資産 (単位: 百万円) / 自己資本比率 (単位: %)



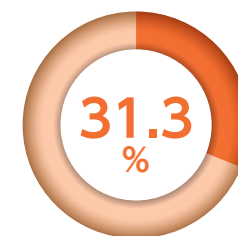
事業部門別概況

ファスナー事業

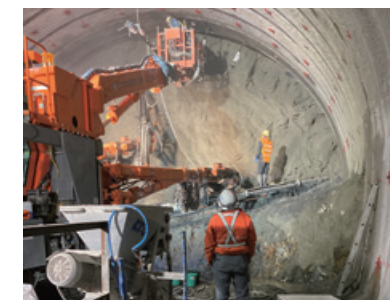


売上高 **70億77百万円** 前期比 **13.9%減**

西日本地区をはじめとして橋梁等の土木耐震工事の受注に注力いたしましたが、上下水道施設に関わる耐震補強工事において、工事の進捗が遅れる等の影響により、完成工事高が伸び悩みました。また、当社製品を織り込んだ設計業務や工事物件発注の遅れが影響し、あと施工アンカーをはじめとする建設資材の販売は、前期を下回りました。その結果、売上高は70億77百万円（前期比13.9%減）となりました。

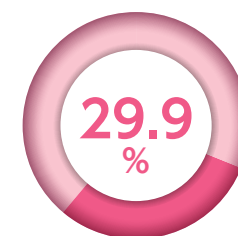


土木資材事業



売上高 **67億79百万円** 前期比 **2.2%減**

北海道・東日本地区においては当社の独自技術を活用したトンネル掘削補助工法の資材販売が順調に推移いたしました。西日本地区における大型案件の減少や工事着工の遅れなどの影響による資材販売減少を補いきれず、売上高は67億79百万円（前期比2.2%減）となりました。

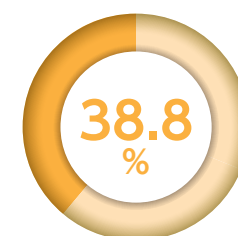


建設事業



売上高 **87億70百万円** 前期比 **18.8%減**

当社の得意とする構造物補修工事で大型物件を3件受注したほか、トンネル補修・補強工事と橋梁補修工事において大型元請物件が4件竣工いたしました。北陸自動車道や関越自動車道の設備工事に付随した「フェイルセーフシステム（取付物落下防止対策商品）」の販売も寄与いたしました。大型工事物件が一巡したことなどにより、売上高は87億70百万円（前期比18.8%減）となりました。



いかなる市場環境においても影響されない真の企業力を目指して

～ 業界に先駆けて高付加価値の製品・工法を開発し、持続的成長を可能にする企業グループへ～

高度な社会インフラ整備の実現に向け、常に「オンリーワン」技術にチャレンジし、豊かな社会資本・インフラ整備に貢献する専門家集団としての責務を果たしてまいります。

基本戦略

- 1) 収益力の向上
- 2) 技術・開発力の強化
- 3) 働き方改革
- 4) 経営基盤の再構築

重点施策

■ 新規事業の創出

- 顧客・現場ニーズ吸い上げ簡素化
- 部門間連携の強化
- 「開発営業部」の新設
- 研究開発投資の増額

■ 研究・技術開発

研究・技術開発テーマ

- 「熟練作業者不足を補う」・「省人化&ICT」
- 「環境」

■ 知的財産

- オープン・クローズ戦略による知財の循環

■ 業務の効率化

- 新基幹システム
- 社内インフラ整備
- 残業時間削減対策
- 戦略的採用の強化
- 健康経営の推進

■ 経営基盤の再構築

- 盤石な組織体系づくり
- 人材の確保・育成・活用
- 投資戦略(研究開発投資/M&A・アライアンス)

ASIAM Infra Company Limited 合併契約書締結式を行いました

2023年4月4日(火)16時30分より、中之島フェスティバルタワー(大阪市北区)にて、ASIAM Infra Company Limited 合併契約書締結式を行いました。

ASIAM Infra Company Limited は、阪神高速道路株式会社、YKアクロス株式会社、Don Muang Tollway Public Company Limited(タイ王国バンコク都ドンムアン区)及び当社の出資によって設立され、タイにおける構造物の点検から診断、設計、補修・補強、材料販売までを包括的に行う維持管理ビジネスを展開することで、当該国インフラの持続可能な発展に寄与し、将来的にはビジネスエリアをアジア圏に拡大することを目指します。



DIY商品「壁生活」をリリースいたしました

本製品は、凹凸のある壁面に吸着し、フックなどを手軽に取り付けることのできる粘着シートです。住居の壁などに傷をつけずに、収納やデコレーションを楽しむことができます。

壁紙の表面に凹凸がある場合、粘着フックなどの接着力が低下することがあります。

「壁生活」は壁紙に貼ることで凹凸を少なくして接着力の低下を防ぎます。

壁に穴を開けたくない場合に、壁紙自体の接着力を上げることができる壁紙用粘着フィルムです。



製品内容
壁紙用粘着フィルム
5cm×10cm
(接着面は片面のみ)4枚入り
材質：ポリエチレン

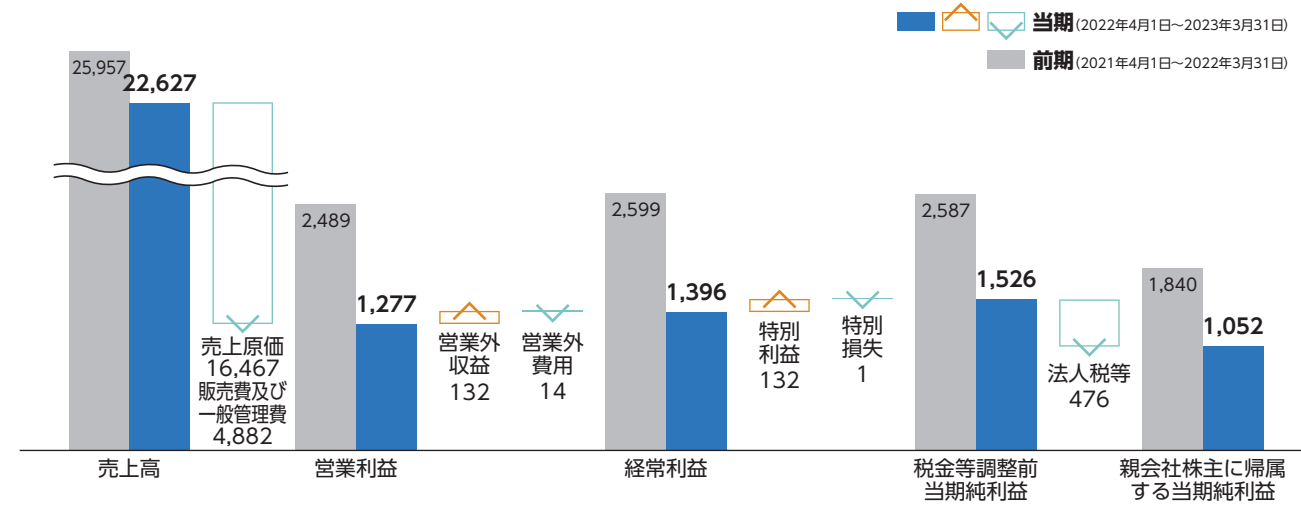


おしゃれにDIYを楽しみたい…
賃貸で壁に穴をあけられない…
いろいろなお困りごとを壁生活で解決!

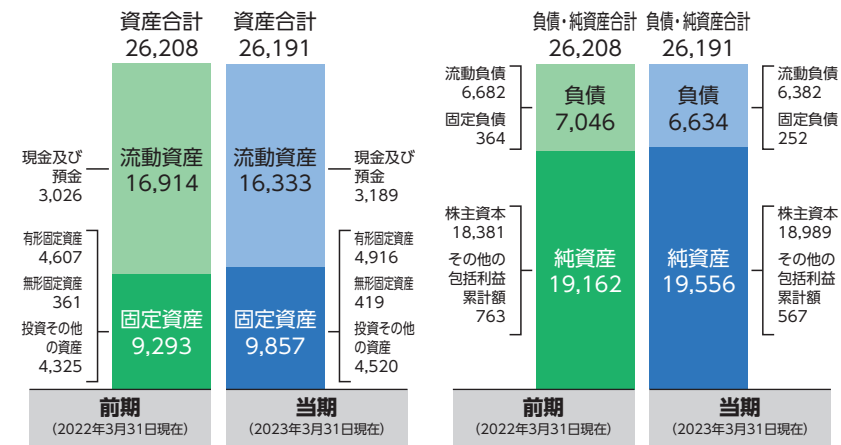
壁生活ホームページ
<https://kfckabe.stores.jp/>



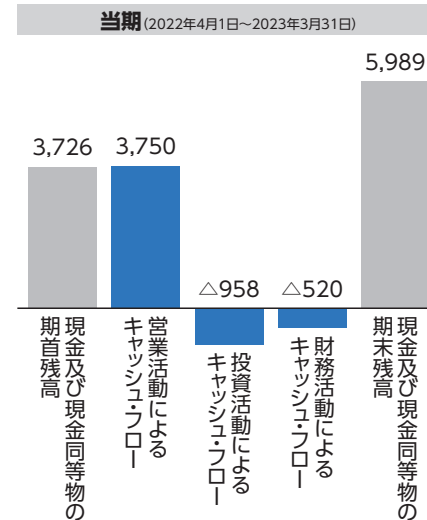
連結損益計算書 (単位：百万円)



連結貸借対照表 (単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)



(2023年3月31日現在)

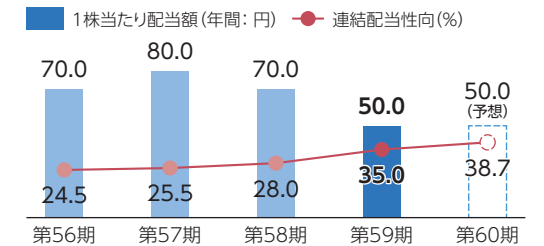
発行可能株式総数 18,970,000株
 発行済株式の総数 7,378,050株
 株主数 2,136名
 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
高田信子	784,000	10.65
積水樹脂株式会社	777,000	10.56
ケー・エフ・シー取引先持株会	432,000	5.87
高田俊太	399,100	5.42
株式会社三菱UFJ銀行	307,000	4.17
株式会社中外精工	175,000	2.38
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	161,200	2.19
エムエスティ保険サービス株式会社	150,000	2.04
那須電機鉄工株式会社	125,200	1.70
上田薫	125,000	1.70

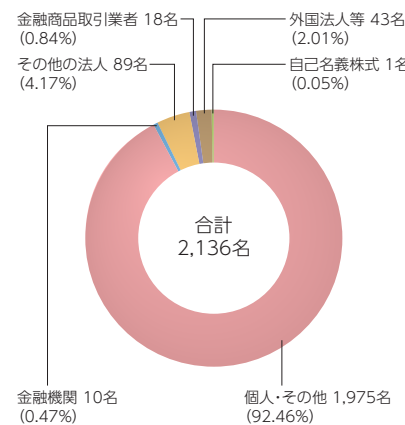
(注)持株比率は、自己株式(18,512株)を控除して算出しております。

配当方針

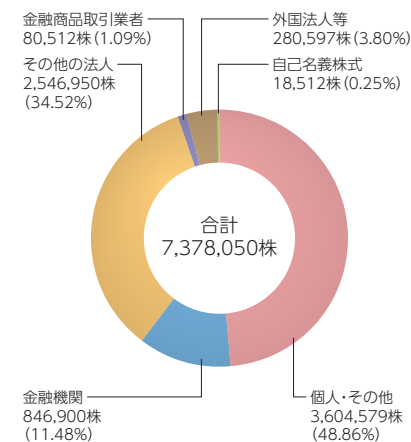
当社の配当政策は、安定的な利益還元を重視することを基本としておりますが、当該期の業績や今後の資金需要、財務状態も総合的に勘案し、株主各位のご期待にお応えしていきたいと考えております。また、内部留保金につきましては、財務体質の強化を図るとともに、経営環境の変化に柔軟に対応するための設備投資や研究開発、新規事業の拡大などに有効活用してまいります。



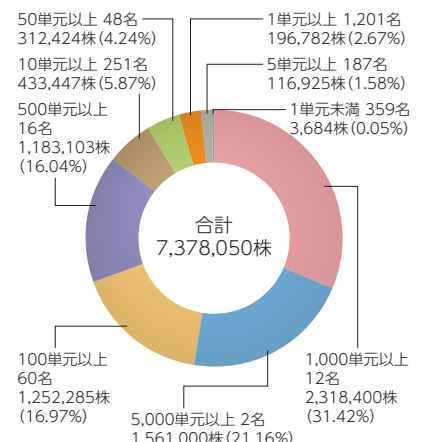
所有者別分布状況(株主数)



所有者別分布状況(株式数)



所有株数別株式分布状況

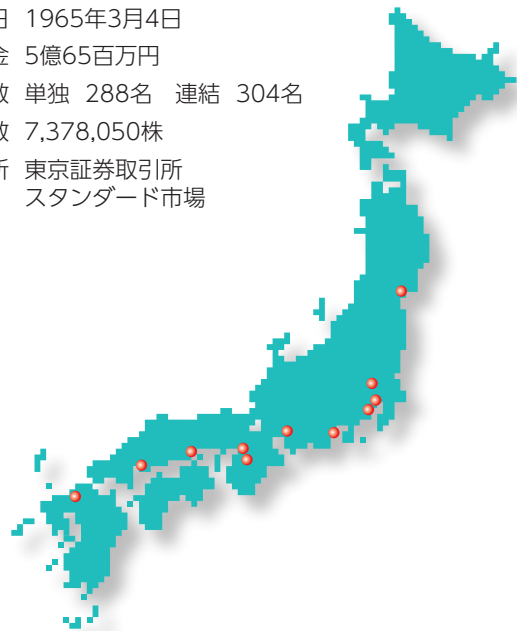


会社の概況

Corporate Profile

(2023年3月31日現在)

商号 株式会社 **ケー・エフ・シー**
 設立年月日 1965年3月4日
 資本金 5億65百万円
 従業員数 単独 288名 連結 304名
 発行済株式の総数 7,378,050株
 上場証券取引所 東京証券取引所
 スタンダード市場



● 本店・本社

本店 〒530-0047
 大阪市北区西天満3丁目2番17号 TEL (06) 6363-4188

東京本社 〒105-0011
 東京都港区芝公園2丁目4番1号 TEL (03) 6402-8250
 芝パークビルB館11階

● 流通センター

大阪流通センター 〒584-0023
 大阪府富田林市若松町東 3丁目4番2号 TEL (0721) 24-7511

関東流通センター 〒347-0010
 埼玉県加須市大桑1丁目19番地 TEL (0480) 76-0091

● 技術研究所

〒347-0010
 埼玉県加須市大桑1丁目19番地 TEL (0480) 76-0095
 〒584-0023
 大阪府富田林市若松町東 3丁目4番2号 TEL (0721) 24-7511

● 営業所

東北営業所 〒981-3133
 仙台市泉区泉中央4丁目15番1号 TEL (022) 772-3981

横浜営業所 〒224-0061
 横浜市中区大丸8番4号 TEL (045) 949-5801
 都筑岩澤ビル

静岡営業所 〒422-8043
 静岡市駿河区中田本町45番16号 TEL (054) 654-5670

名古屋ファスナー部 〒461-0048
 名古屋市中区矢田南 5丁目1番11号 TEL (052) 711-8088

岡山営業所 〒700-0975
 岡山市北区今7丁目7番13号 TEL (086) 243-5722

中国営業所 〒732-0811
 広島市南区段原4丁目5番2号 TEL (082) 568-4750

福岡営業所 〒812-0016
 福岡市博多区博多駅南6丁目 16番10号 第一小笠原ビル TEL (092) 461-2735

役員

(2023年6月23日現在)

取締役及び監査役

代表取締役社長(兼)執行役員社長	高田俊	太宗
専務取締役(兼)専務執行役員	石田裕	宗
常務取締役(兼)常務執行役員	堀口康	郎
常務取締役(兼)常務執行役員	羽馬徹	
取締役(兼)執行役員	石原淳	
取締役(兼)執行役員	稲葉朗	
取締役(兼)執行役員	田村知	幸
社外取締役	佐野裕	
社外取締役	中桐万里子	
常勤監査役	山口義弘	
社外監査役	五島洋彦	
社外監査役	渡部靖彦	

執行役員

執行役員	大平康史	
執行役員	村井良和	
執行役員	千足裕一	
執行役員	新井吉幸	
執行役員	菅原崇秀	

● 連結子会社(国内)

アールシーアイ株式会社
 大阪本店 〒530-0047
 大阪市北区西天満3丁目2番17号 TEL (06) 6363-4362

東京本社 〒105-0011
 東京都港区芝公園2丁目4番1号 TEL (03) 6402-7570
 芝パークビルB館11階

Trust Safety Functionality

信頼

安全

機能性



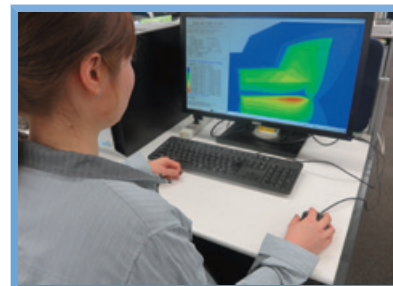
時代のニーズに先進技術で応え続けて半世紀 建設用アンカーのパイオニア

建築土木用アンカー製品からトンネル内装工事・サポートまで。

当社では、埼玉県加須市に全事業部門を横断的に統一した技術部門である技術研究所を設けています。それぞれの事業部からフィードバックされる情報、アイデアなどをもとに、新たな製品・技術・工法を開発するとともに、既存技術の異業種、他分野への適応などについても研究しています。

現場からのフィードバックにより、さらに安全性と機能性を追求した新たな製品開発に取り組んでおります。

設計・技術開発



現場施工

